

題 材 「『やめて!』と言えなくて・・・」(対象:低学年)

1 ねらい

相手の嫌がることをすることは許されないことを理解させる

2 場面設定

授業中に後ろの人から鉛筆でつつかれる

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

みなさんは、どう思いますか？

たかし君は、授業中に前の人をつついて、遊んでいますね。

では、つつかれた私はどうでしょうか？

□ 「やめて!」と言えずに、困っていますね。

毎日続くので、私はだんだん学校に行くのがイヤになってきています。

そのことを、誰にも相談できずに、一人で悩んでいます。

そして、とうとう、今日は学校を休んでしまいました。

□ たかし君は「遊び半分」でやっているとしても、私は学校に行けなくなるほど、イヤな思いをしています。

私は今日、やっとお母さんに話すことができました。

きっとお母さんも力になってくれると思います。

□ みなさん、「遊び半分」や「軽い気持ち」でやっていることが、もしかしたら友だちを傷付けているかもしれません。

一人ひとりが、友だちの気持ちを考えて、行動できることが大切です。

「やめて！」と言えなくて・・・

「やめて！」と言いたけれど
どうしても言えません・・・

じゅぎょう中に、後ろのせきの
たかしくんがわたしのせ中をえん
ぴつでつついてきます。

わたしは、「やめて！」と言いた
いけれど、どうしても言えません。

そのうち、学校に行くのがだんだんイヤになってきて、とう
とう今日は、お母さんにぐあいがわるいとウソをついて休んで
しまいました。

お母さんは、わたしのそばで、話を聞いてくれました。

母 「学校で何かあったの？」

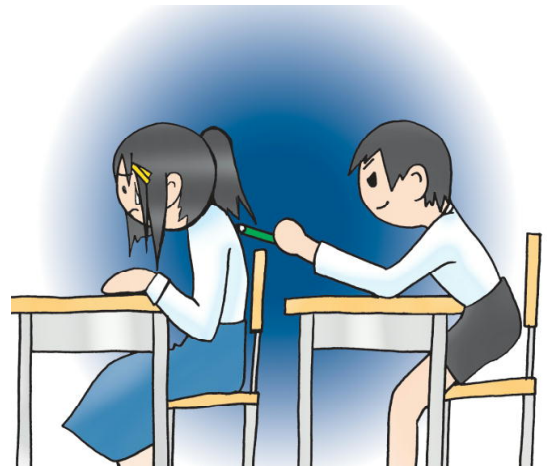
わたし 「・・・」

母 「このごろ、元気がないからしんぱい
していたのよ。」

わたし 「後ろのせきのたかしくんが、えんぴ
つでつついてくるのがイヤなの。」

母 「そんなことがあったのね。でも、よ
くがまんしてきたわね。」

わたし 「でも、がまんできなくなって、休ん
でしまって…お母さん、ごめんなさい。」



題 材 「回そうか、止めようか・・・」(対象：高学年)

1 ねらい

いじめは絶対に許さないという心情を育む

2 場面設定

授業中、クラスの一人を無視しようという手紙が回ってきた

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

こんなとき、みなさんだったらどうしますか？

①のように、友だちを無視するのは嫌だけど、自分が無視されるのはもっと嫌だから、手紙を次の人に回してしまうという人がいるかもしれませんね。

□ また、②のように、友だちを無視することは嫌だから、手紙を回さずに、仲のよい友だちに相談してみるという人がいるかもしれませんね。

□ さらに、③のように、クラス全体のことなので、先生に相談してみるという人がいるかもしれませんね。

□ 誰も、独りぼっちになりたくはありません。友だちと仲よく過ごしたいはずですが、しかし、残念ながら、「いじめ」を受けて、辛く悲しい学校生活を送ったり、学校に行けなくなったりしている人もいます。

この話は、ちょっとしたいたずらなどではありません。

「楽しく学校生活を送りたい」と誰もが願う気持ちを踏みにじる、絶対に許されないことです。

□ みなさんには、「やめよう」と友だちに伝えたり、先生に相談したりして、いじめのないクラスにしてほしいと願っています。

④ 回そうか、止めようか・・・

友だちを助けたい
でも、自分が無視されたらどうしよう

授業中、クラスの一人をみんな
で無視しようという手紙が回って
きました。

次の人に回そうかな。同じクラ
スの友だちのことだし、止めようかな・・・。
どうしたらいいのかな？



① 自分が無視されるのはイヤなので、
次の人に回す。

② 手紙は回さずに、休み時間に仲のよ
い友だちと話をしてみる。

③ 先生に相談する。

題 材 「もう発表なんかしたくない・・・」(対象：高学年)

1 ねらい

間違いや失敗を温かく受け入れる集団の大切さを理解させる

2 場面設定

発表して間違えたとき、皆に笑われた

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

みなさんは、授業中に発表したり、委員会活動などで司会をしたりすることがありますね。

人前で話をするのは、誰でも緊張するよね。

□ 今読んだ資料では、ぼくが答えを間違えたときみんなに笑われて、発表することが恐くなってしまったんですね。

もし、みなさんが同じような経験をしたら、その後どんな気持ちになるでしょうか。

□ 「また、間違ったらどうしよう」

「また、笑われるかもしれない」

「いつもニヤニヤしながら見られているような気がする」

どんどん不安が大きくなるでしょうね。

□ みなさんは、毎日学校でたくさんのことを学んでいます。

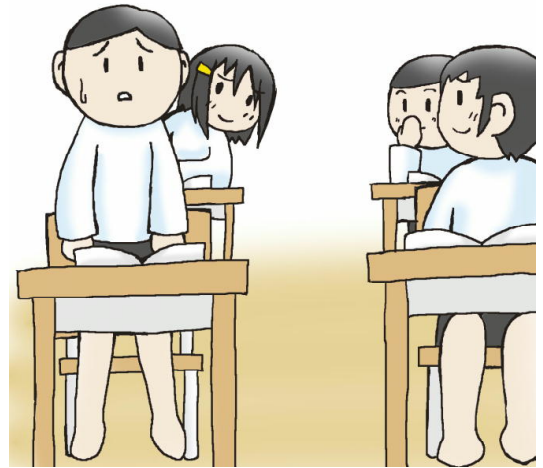
勉強するときは、間違ってもいいんだよ。間違いながら学んでいくんですよね。

みなさん一人ひとりには、間違いを恐れずに発表できるようになってほしいし、みんなには、間違いや失敗を温かく受け止められる、そんなクラスであってほしいと願っています。

もう発表なんかしたくない・・・

なぜみんな笑うの？
もう二度と発表はしたくない

ぼくは、最近まで、積極的に発表
する方でした。
でも、ある出来事があって、発表
するのがこわくなってしまいました。



先生 「この問題はだれに答えてもらおう
かな？それでは、田中君。」

ぼく 「はい、答えは76です。」

先生 「うーん。ちょっとおいしいね。」

周りのみんな

「あんなことも分からないんだ。」

「えー、どうして分からないの？」

クスクス…

ぼくは、しばらくの間、立っただけで、何も言えませんでした。
今では、分かっているけど発表しません。

題 材 「ちょっとかりただけなのに・・・」(対象：低学年)

1 ねらい

自分勝手な行動を慎み、友だちと仲よく生活することの大切さを理解させる

2 場面設定

消しゴムを勝手に使ってけんかになる

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

ぼくとたろう君は、最後はけんかになってしまいましたね。

なぜ、けんかになってしまったのでしょうか？

□ ぼくは、「ちょっとくらいいいだろう」「けちけちするな」と言っていますね。

ずいぶん自分勝手な考えですね。

たろう君は、『かして』くらい言ってよ」と言っています。

自分のものを黙って他の人が使っていたら、いい気持ちはしませんね。

□ では、どうしたらけんかにはならなかったのでしょうか？

それは、ぼくが「これ貸してくれる？」ときちんと聞いたら、たろう君は、「いいよ」と気持ちよく消しゴムを貸すことができたのではないのでしょうか。

みなさんも、人からものを借りるときは「貸してね」ときちんと言いましょう。

そして、借りた後には「ありがとう」と言えるといいですね。

ちょっとかりただけなのに・・・

ちょっとぐらいいいじゃないか
そんなにおこらなくても・・・

自分のけしゴムが見つからな
かったので、となりのたろうくんの
けしゴムをつかいました。

すると、たろうくんは、「かって
につかうなよ」と、とつぜんおこってきました。



たろう 「何でかってにつかうんだよ！」

ぼく 「いいじゃないか、ちょっとくらい。」

たろう 「人のものをつかうときは、『かして』
くらい言いってよ。」

ぼく 「そんなにけちけちすることないだろ
う。」

たろう 「けちだから言いってるんじゃないよ。」

ぼく 「もういいよ、もうかりないよ！」